

自然・人類・社会、 その超えるべき課題と未来

2015年3月12日

公益財団法人国際高等研究所戦略会議第1期最終報告書



目次

はじめに	3
------	---

第1章

高等研の責務	5
--------	---

1. 高等研創立の理念の想起とその実践
2. 高等研の特長
3. 「問いかける力」の涵養と実践
4. 高等研から世界に問いかける意味

第2章

人類・地球が抱える課題	9
-------------	---

1. 持続可能性の必要性
2. 課題の複雑化・不確定化
3. 歴史観と世界観の重要性
4. 進歩史観の転換

第3章

課題の設定と解決の視点 — 過渡期の智慧と実践力 —	13
----------------------------	----

1. 新たな智慧の創造と新しい時代におけるモデルのデザイン
2. インバランス下のバランス — Wisdom in Transition —
3. 知識創造と社会システムの再構成
4. 資本主義社会の再検討と持続社会の構築

第4章

高等研として直ちに取り組むべきこと	17
-------------------	----

1. 将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方
2. 循環型、定常経済社会の構築の必要性との方策
3. 多様な価値観を持つ社会や国家の平和的共存のための方策
4. これらの課題の検討について、開かれた場をつくることの重要性

第5章

国際高等研究所の今後の活動	21
---------------	----

付録

ISCの議論から出てきた課題例	23
-----------------	----

国際高等研究所戦略会議 (ISC) 第1期委員構成	25
---------------------------	----

国際高等研究所戦略会議 (ISC) 第1期開催経過	25~26
---------------------------	-------

はじめに

公益財団法人国際高等研究所(以下、「高等研」)は、関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)に、第1章1に示す基本理念をもって設立された機関である。30年を経過し、社会や世界、地球環境等が大きく変わった今日、高等研はその創設の原点に立ち返り、基本理念のよりよい具現化を進めるとともに、今後高等研が現代社会と将来世代に対する役割と責任を継続的に果たしていくため、中長期基本計画を策定し、その基盤を構築することを目的に、立石理事長の諮問機関として、国際高等研究所戦略会議(IIAS Strategic Committee: 以下、「ISC」)を2013年10月に設置した。



ISCは、高等研における今日までの研究成果を踏まえて、新しい時代の変化を読み取り、地球社会の平和的かつ持続的な共存をはかるために必要な共通認識は何かを明確化し、それを実現していくための新しい活動領域を設定するとともに、その成果を社会に積極的に発信し、実践につないでいく方策を、今後の中長期基本計画として検討した。





高等研は設立以来多くの成果をあげてきたが、30年たった今日、地球社会が直面している多くの困難を前にして、

- 1)ビジョンや方向性を明確化しなおすこと
- 2)学研都市の中核機関としてその知的ハブ機能の発揮を期待されてきたが、現状は不十分であり、それを再構築すること
- 3)現代の世界的な大転換期において、何を社会的課題として捉え、その解決に向けてどのような活動を行っていくべきかを原点に立ち返って検討すること
- 4)こうした検討を踏まえ高等研の使命を果たしつつ、世界におけるその認知度を高めること

が必要である。

以上のような視点から、戦略会議は、2014年夏までに5回の会合を持ち議論を展開してきた結果を、中間報告書として取りまとめた。その後、この報告書の内容を具体化するために、高等研にいくつかの検討部会を設けることが必要であるとして、3回にわたってどのような課題を今日設定するのが良いかの議論を行った。その結果を反映した上で、最終報告書を取りまとめた。

本報告書は、高等研関係者だけではなく、広く社会に公開し、意見を求めるとともに、これらの意見を研究所に設けられる検討部会に取り込み、議論をより良いものにしていくことが期待される。

本報告書が、これからの有限資源の地球に住む人類の将来について検討するにあたって一つの指針となることを希望する。